

## 令和7年度（2025年）全国学力・学習状況調査結果の概要と本校の具体的な取組

## 調査 内容

（国語科・算数科・理科・質問調査において）

実施日：令和7年4月17日（木） 実施対象：第6学年 2学級

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し次のとおりとする。①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等 ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

## 教科調査の結果分析より

## 【各教科の平均正答率】

	国語	算数	理科
和佐小学校（本校）	68	62	60
全国	67	58	57
和歌山県	68	58	57
和歌山市	68	58	57

## 【国語科の調査結果に見える本校児童の傾向】

全体の正答率では、全国より 1P 高い結果となっています。しかし、下記の課題の克服が重要だと考えます。また、漢字の定着に課題が見られる部分もありました。

- 課題① 事実、感想や意見などとの関係を、叙述を基に捉え図式化できる力に課題があり、文章全体の構成を理解する力が必要である。
- 課題② 複数の条件を満たして目的に合った文を書く場合、大切な言葉を選び、全ての条件を満たして要約することが難しい。
- 課題③ 文脈を読み取り、空欄にどのような内容を書かなければいけないかを、書き手のメモの内容から判断して作文する力に課題がある。

## 【算数科の調査結果に見える本校児童の傾向】

全体の正答率では、全国より 4P も高い結果となりました。ただ、正答率が低い設問を挙げると、分数や割合、図形の面積の求め方の問題に関して正答率が低いことが分かります。これは全国でも同じ傾向にあります。

- 課題① 計算等はできるが、公式の成り立ちや計算方法の数学的根拠の理解が不十分である。
- 課題② 課題に対して、与えられた公式などの条件を用いて、式や言葉で説明する力に課題がある。
- 課題③ 解答を導き出すために、必要な数値が何かを判断する力や、文意を図式化する力が必要である。（問題の言葉だけに頼ってしまい、問題の意図する解答にならず、ケアレスミスに繋がっている。）

## 【理科の調査結果に見える本校児童の傾向】

理科においても、全体の正答率では全国より 3P 高い結果となりました。しかし、特に、身の回りの金属の磁性や通電性についての理解が低い結果となりました。（全国も同様に正答率 10% ほど）

- 課題①身の回りの物質の性質とその分類（金属・非金属・混合物など）の理解が不十分。
- 課題②花のつくりなど、「生命」に関する領域の理解が不十分で、基本的な理科用語の習得に課題がある。
- 課題③実験において、何を調べたいかを明確にし、条件を限定した対照実験を行い、結果と分析の習得を確実にする。

## 質問調査の結果分析より

(児童質問調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。)

### 【就寝時刻、起床時刻について】

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の質問に対し、「している」と回答をしたのは 86.8%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の質問に対しては、92.2%で、どちらも県・国平均より高いです。

本校でも「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨していますが、「朝食」に関しては、本校は 5.3%の児童(国 6.4%)が「食べていない」と回答していました。国と比較すると割合は少ないですが、6 年生のうち 2 人は食べていない計算になります。規則正しい生活は、心と体の成長には欠かせないことです。1 日の過ごし方を考え、早く寝て疲れをしっかりと取り、朝ごはんを食べて、毎日元気に登校して意欲的に活動してほしいです。

### 【学習について】

「国語の授業の内容はよく分かりますか？」の肯定的意見の割合は 89.7% (国 82.8%)、「算数の授業の内容はよく分かりますか？」は 92.1% (国 78.3%) となっており、やや国平均と比べて高く、9 割を超えています。

今後も、児童一人ひとりが「分かった」という実感が湧くような授業展開が必要だと考えます。

さらに、「学校に行くのは楽しいと思いますか？」94.8% (国 86.5%)・「友だち関係に満足していますか？」94.7% (国 91.7%) の児童が肯定的であるので、これも国と比較すると高く、たいへん嬉しく思います。児童にとって学校が心理的な安定・安心を感じる場所となることは、最も重要なことと考えています。

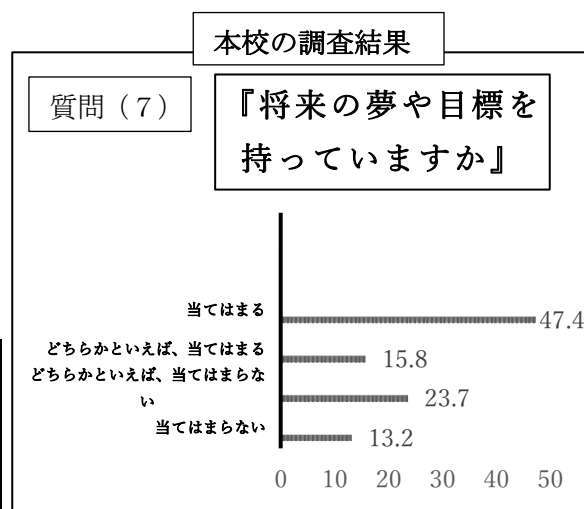
### 【挑戦心・自己有用感について】

「将来の夢や目標を持っていますか？」という質問に対し、肯定的な回答をした児童は 63.2% (国 83.1%) で、国平均より 19.9% も低い結果となっています。

特に注目すべきは、選択肢①「当てはまる」を選んだ児童の割合が 47.4%で、国や県と比較するとかなり低い結果となっています。児童には、学校だよりや始業式等で、「進んで挑戦しよう!」「初めから諦めない」などの話を事あるごとにします。最上級生が主体的に行動してくれれば、下級生たちにもその影響が出てきます。

学校教育においては、児童に活動の機会を与え、挑戦心、自己肯定感を高めていくことが肝要だと考えています。

和歌山県・国との比較	本校	県	国
当てはまる	47.4%	59.1%	60.7%
どちらかといえば、当てはまる	15.8%	23.6%	22.4%
合計	63.2%	82.7%	83.1%



※グラフの単位は %

## 調査結果を受けて、本校が取り組んでいくこと

### 【学習について】

(国語科) 普段の学習活動で、言葉を大切に読み、読み取ったことを書く活動を積極的に取り入れていきたいと思います。解答を導き出す条件が複数あると、抜けてしまう条件があるため、字数制限をしたり、複数の条件を出したりしながら、条件を満たして書く練習を取り入れます。「聞く力」については、話し合いの中で自分の考えを持つことはできるようになってきているので、相手の考えの良いところや自分と同じところ、自分との違いを意識して聞き取るように指導していきます。また、文章を読み取ることにおいては、普段より多くの文章を読み、文章どうしの関係を読み取りながら、情報を整理し、要約して書く学習を進めていきたいと考えます。

(算数科) 日常生活で起こりうる場面を想定し、どのようにして解答を導き出せるかを考えるようにしていきたいと思います。課題に対して条件を満たした解答ができていないことについて、授業の中で、自分の考えを書き、与えられた条件が満たされているかを確かめさせていきます。公式・計算等の暗記のみに留まらず、数学的活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育みたいと考えます。

(理科) 理科用語などの基礎的な学習を確実にさせ、論理的な思考による対照実験等で科学的な知識を定着させるような授業形態を工夫しなければならないと考えます。身の回りの物質、自然に興味を沸かせ、科学的な知識が定着するような授業改善に尽力したいと思います。

(自己肯定感) 本校の児童の課題は、「自信・粘り強さ・実行力」にあります。本校では、この課題に迫るために、「生活科・総合的な学習の時間」を研究教科に据えています。主体的で探究的な学習の中で、グループ活動での話し合い、活動等の個々の役割を通して自己肯定感を高め、それが他の教科での主体的学習に繋がることを狙って教職員全体で教育活動を行っています。そのような取組を通して、心の安定、学習の基礎作りを今後ますます進めていきたいと考えます。

### 【生活・健康について】

健全な心と体は、児童の成長には必要不可欠なものです。質問調査からみると、基本的な生活習慣については一応の確立は見られるものの、「朝ごはんを食べていない」児童もいます。本校では、毎学期「生活リズム調べ」を実施していますが、今後も児童に基本的な生活習慣を定着させる指導を行っていきます。ご家庭でも、学校での主体的な活動のためにも、お子様の生活習慣をぜひ見守っていただければ幸いです。「健全な精神と健全な体」をめざし、教育活動に励みたいと思います。どうぞ、本校の教育活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。